

山口和之さんの  
いきいき  
Interview vol.8  
企業探訪



日本はもっと  
強くなれる  
優しくなれる

山口 和之  
(やまぐち・かずゆき)

元衆議院議員・元参議院議員・南東北グループGM・理学療法士・介護支援専門員。30数年前、福島県立医科大学病院から南東北脳神経外科病院(現在の当院)のリハビリテーション部門立ち上げに招聘される。以後、予防・治療・リハビリテーション・地域ケアにおいて当院の発展に尽力。議員時代に東日本大震災対応をはじめ、世界に誇れる自立支援介護の推進、循環器病対策基本法の立法など医療介護福祉の政策に貢献する。

山口 市民の足として欠かせないタクシーですが、最近は高級車両も配備され、移動自体を楽しめるようになりました。今回はフタセ交通の安藤一成社長にお話を伺います。まずは事業内容や企業理念などについて教えてください。

山口 お客様と接する上で大切にしていることは、安藤 タクシーは様々な方がお客様に合わせることを大切にしています。安心安全な運転を心掛け、初めてのお客様にも信頼されるよう努めています。適切なコミュニケーション

安藤 一般乗用旅客自動車運送事業(タクシー・ハイヤー)と一般乗合旅客自動車運送事業(乗合タクシー)を行っています。現在、ドライバールームは76名、車両は43台保有しています。

山口 企業理念は『タクシー事業を通じて地域の皆様の安全と安心を、笑顔で人に優しく人と社会のお役に立てる公共交通機関』です。



代表取締役  
安藤 一成氏  
(あんどう いっせい)

フタセ交通(株)

郡山市田村町金屋字川久保26-1  
TEL.024-943-1011  
https://futase-koutsu.com



フタセ交通が保有するタクシー・ハイヤー車両

安心安全な運転や細やかなサービスを心掛ける  
人材確保に努め、女性ドライバーの採用を目指す

山口 2024年問題への対応... 清潔な空間づくり、そしてタクシードライバーとして日々、人間力を高める勉強に取り組んでいます。

安藤 まずは感染対策です。手洗いやマスク、自動体温測定機、家族の感染者の確認、ドライバーの健康チェックなどを常に行っています。限られた車内空間で、距離をとることや接触を減らすことは難しいですが、全国的に見てもタクシードライバーの感染者数は低い傾向にあります。ありとあらゆる感染防止策が今も習慣となり、車両の清掃や美化につながっています。コロナ禍でのニーズに対応するため、お手伝いタクシーを始めました。品物のお届けや受取りなど細かな要望に応えるべく、お客様の足となり、たいへん喜ばれました。

山口 コロナ禍で変わったことやニーズの変化は、安藤 まずは感染対策です。手洗いやマスク、自動体温測定機、家族の感染者の確認、ドライバーの健康チェックなどを常に行っています。限られた車内空間で、距離をとることや接触を減らすことは難しいですが、全国的に見てもタクシードライバーの感染者数は低い傾向にあります。ありとあらゆる感染防止策が今も習慣となり、車両の清掃や美化につながっています。コロナ禍でのニーズに対応するため、お手伝いタクシーを始めました。品物のお届けや受取りなど細かな要望に応えるべく、お客様の足となり、たいへん喜ばれました。



ハイヤーの乗り心地を確かめる山口さんと安藤社長

山口 2024年問題については、安藤 2024年問題としてまずはライドシェアがありませんが、具体的なことは決まっています。色々の議論が出てくるでしょう。人材不足で繁忙などは供給不足に陥りませんが、タクシー会社には供給責任があります。悪天候などでは100%カバーできませんが、最大限の範囲で供給しなくてはなりません。今年の最大のテーマは人材確保、特に女性ドライバーの採用に

山口 超高齢社会の日本では交流人口の増加が様々な課題解決につながっていきます。政治・行政は高齢者に配慮した地域交通の重要性を再認識すべきで、フタセ交通さんには大いに期待しています!

山口 働き方改革や社員の福利厚生などはいかがですか。安藤 4月から拘束時間や休憩時間の一部が変更され、改善基準の対応と併せて規則の見直しや変更を早めに済ませたいと思っています。健康診断は年に2回行っており、産業医の診断のもと、一人一人に健康指導をしています。希望者には脳ドック検診を実施し、前回は3名の社員が再検査となりました。早めの対応ができ、受診した社員からは大変感謝されました。脳ドックは今年も検討しています。

山口 今後の夢やビジョンをお聞かせください。安藤 タクシーを通して社会貢献をしっかりとやっていきたいと思っています。タクシーに公共性を持たせることで細やかな対応ができ、地域の方々の交通の利便性確保や向上につながるかと考えます。また交流人口も増え、人に寄り添う交通インフラが整うことで生活がより豊かになるでしょう。